

スマート農業の実証開始 SDGs未来杜市・真庭スマート農業オープンラボ始動



真庭農協から農機具贈呈



ラジコン草刈機を操作



初心者でもできる真っすぐな田植



ドローンで防除と追肥が可能に

本実証課題は、農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」（事業主体：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）の支援により実施しています。

6月4日、農事組合法人寄江原が管理する水田でスマート農業実証が始まりました。実証を行うのは、農事組合法人寄江原や真庭農協、県市など10団体で構成される団体「SDGs未来杜市・真庭スマート農業オープンラボ」。農業の担い手不足解消や生産性の向上を図るため、ハンドル操作なしで真っすぐに稲を植えることができる田植機や、水田の水位をスマートフォンで監視・操作することができるとシステムなど最先端の技術を活用した農業が始まります。

6月11日、真庭市立図書館自動車文庫の試験運行が開始されました。これまで蒜山・湯原地域で運行していた車両を更新し、運行地域を市内全域に拡大。図書館まで遠い地域に約1000冊の本を積んだ車両が行くことで、その場で本の貸し出し・返却などができます。7月から始まる本格運行では、市内10ルートを月1回のペースで巡回予定です。運行日程などは、真庭市ホームページをご覧ください。

自動車文庫試験運行開始 本をお届けします



どんな本があるのか楽しみ(6月13日 富原小学校の様子)



慎重に作業する子どもたち

郷原漆器体験授業 本物の芸術を体験

6月6日、中和小学校で郷原漆器体験授業が行われました。市では、文化芸術への関心を高め、豊かな心を育む取り組みとして、体験授業を行っています。子どもたちは、郷原漆器の館の高月国光館長から郷原漆器の歴史などを学んだ後、漆塗りの指導を受け、スプーンや箸に色漆を塗り、思い思いの作品を製作しました。作品は7月27日から8月4日まで、勝山文化往来館ひしおに展示する予定です。



市長室から
こんにちは!

「真庭シシ」 国際会議の場でも活躍!

今日の大量生産、大量消費時代に警鐘を鳴らす位置づけで、真庭市出身の現代アート作家柴田英昭さんに真庭市内から出た廃棄物(ゴミ)で制作してもらった「真庭のシシ」が注目され、各地で活躍しています。

昨年12月末に、今年の干支にちなんだシシを旧遷喬小学校で披露したところ、子供たちの人気者になり、年賀状にその写真を入れた市民もいたとか。市内で披露した後、瀬戸内国際芸術祭で賑わう玉野市宇野港に展示したところ、大変好評を博したとのこと。

このシシをさらにあの有名な軽井沢に遠征し、主要20カ国地域(G20)エネルギー・環境関係閣僚会議の日と前日の3日間、近くの広場に展示しましたが、地元長野県以外で展示できたのは真庭市のみです。前日の6月14日には、原田環境大臣、世耕経済産業大臣などの日本政府関係者はもちろん、USA、EUなど外国の大臣や政府高官の来訪が続々ありました。私や職員が対応しましたが、ありがたいことに両大臣自ら外国要人に対して「真庭市は環境やバイオマスで頑張っている」というスピーチをして下さいました。

「真庭のシシ」は観光客など一般来訪者の関心も高く、アート作品で感性に訴えることの効用に確信を持つとともに、SDGsが国際社会に普及し、人類共通の重要課題になりつつあると痛感した次第です。加えて、バイオマスツアーで真庭市に行ったことがあるとか、真庭市の認知度がかなり高いことも実感できた日々でした。

とは言え、真庭を永続的に発展させる運動は緒に就いたところ。地球的視点に立ち、未来の真庭のために、4万5千人市民皆様とともに果敢にSDGsの行動をしようではありませんか。



真庭のシシを前に市の取り組みなどを説明しました

6月15日と16日、長野県軽井沢町で開かれたG20関係閣僚会合に合わせ開かれたイノベーション展で、真庭のシシが展示されました。海洋プラスチックの対策や新エネルギーなど技術革新をテーマにしたサイドイベントに、SDGsに取り組む自治体としては唯一の参加。持続可能な廃棄物処理の仕組みづくりに取り組んでいることについて、太田市長をはじめ市職員が会合の参加者や一般観光客に説明しました。

G20イノベーション展 G20で「まにシシ」展示



障害馬術を披露する原田昂治選手

6月16日、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、蒜山ホースパークで「馬術競技を知ろう!2019」が開催されました。東京五輪出場を目指す原田喜市選手や、勝山高校蒜山校地馬術部の原田昂治選手によるデモンストレーションが行われたほか、スポーツ少年団蒜山支部馬術部団員による演技が披露されました。馬術を見ようと会場に集まった人たちは、華麗な演技に拍手を送っていました。

馬術を知ろう! 東京2020に向けて